

令和7年度 教育学研究科 教育実践高度化専攻

養護科学コース 解答例

問題 1

解答

- ① アレルギー ② 皮膚 ③ 消化器 ④ 呼吸器 ⑤ 急激 ⑥ 血圧
⑦ アナフィラキシーショック ⑧ 生命 ⑨ まん中 ⑩ 安全キャップ
⑪ 前外側 ⑫ 垂直 ⑬ 数秒

出題意図

【ポイント】各疾患の特徴をよく知ること

【説明】アレルギー疾患には食物アレルギー・アナフィラキシー、アトピー性皮膚炎、気管支ぜん息、アレルギー性結膜炎、アレルギー性鼻炎などがある。症状は疾患によって異なるため、個々の疾患の特徴を知ること、それを踏まえた学校での取り組みが行えるようになる。

【ポイント】個々の児童生徒等の症状等の特徴を把握すること

【説明】アレルギー性疾患は同じ疾患の児童生徒等であっても個々の児童生徒等で症状が大きく異なる。その違いは、疾患の病型や原因、重症度として表される。

【ポイント】症状が急速に変化するを理解し、日頃から緊急時の対応への準備を行っておくこと

【説明】疾患によってはその症状の変化がとても速い。食物アレルギーでは原因食物の摂取後に症状が急速に進行することがある。気管支ぜん息でも児童生徒等が運動をきっかけに急に急性増悪（発作）を起こすことがある。食物アレルギー・アナフィラキシーや気管支ぜん息の症状は特に急速に悪化するるので、そのことを理解し日頃から緊急時の対応への準備をしておく必要がある。

問題 2

1. 2023年の平均気温偏差はおよそ $+1.3^{\circ}\text{C}$ で、これまでで最も高い。日本の年平均気温は、長期的には100年あたりおよそ 1.5°C の割合で上昇しており、特に1990年代以降高温となる年が頻出している。(97字)

2. 学校で子どもたちができる環境問題への具体的対応には、電気・水・食品・ゴミ・リサイクルについて、がある。学校には照明やエアコンが設置され電気の無駄遣いが発生しやすい。エアコンの温度を必要以上に高温または低温にしないように調整し、日光を抑えるグリーンカーテンにより電力消費量を減らすことも可能である。学校で水を流しすぎなければ節水になる。洋式便座はなるべく「小」、口をゆすぐときにコップ、掃除用具を洗うときにバケツを使うことなどが挙げられる。蛇口の水の止め忘れを子どもたち同士で呼びかけ合うことも重要である。食品ロスを減らすことでは、配膳を素早く完了させることで食事の時間が増えるため、食べ残しを減らせるのではないか。家庭科で食品を無駄なく使用する方法を教えて、子どもに家庭で実践してもらおう。直観的に取り組めるものではゴミの削減があり、ノートを最後まで使い切る、不要なプリントの裏紙をメモ帳がわりに使うことや、登校中にゴミ拾いできる清掃活動を実施する。学用品は、学年が進むにつれて使わないものが増えてくる。不要な用品を寄付して、バザーなどの活動を行うことでリサイクルを促進できる。(489字)